

「英語教育改善プラン」に基づいた教員の英語力・指導力向上に向けた取組 「外部専門機関と連携した英語指導力向上事業」～茨城県～

- 生徒主体の言語活動を取り入れた授業実践を促進
- 教員の英語力, 指導力の向上と生徒の英語力, 英語への興味関心の向上

○課題解決のための具体的な対策

取組の内容

- ①「英語ディベート指導法研修」を実施。(H26～30)
※「授業の中にディベートをどう取り入れるか」についてオールイングリッシュの研修
- ②ハワイ大学に派遣された教員による公開授業及び研究協議の実施。(H26～30)

成果と課題

- ①「英語ディベート指導法研修」受講者アンケート結果
本研修受講後授業改善が進んでいる。 86.6%
- ②「ハワイ大学派遣者による公開授業」参観者アンケート結果
自分の授業改善の参考になった 99.6%
- ③教員の英検準1級等取得状況
56.6%(H26)⇒60.0%(H27)⇒61.5%(H28)⇒62.0%(H29)
※①, ②の研修で, 教員の英語力は十分に向上していると考えるが, 英検準1級等の取得率の大幅な向上が見られないのが課題である。

成果の波及・周知について

- ①「英語ディベート指導法研修」を全英語科教員が受講。
- ②「ハワイ大学に派遣された教員による公開授業」を全校から1名以上が参観。参観後各高校で伝達。

課題解決のための手立て

本県独自に「英検等取得状況調査」を実施。国が求める外部試験を取得していない教員を対象に、「英語力向上研修」を行った。今後も引き続き, 研修を行っていく。

平成26～30年度「外部専門機関と連携した英語指導力向上事業」～茨城県立太田第一高等学校～

現状の課題と課題解決のための手立て

【現状の課題】

- グローバルな視点で思考できる自立した英語学習者の育成プログラムの展開に課題……目指す生徒像の非共有。組織化されてない散発的な取組。
- 多文化共生の視点に立ち、ツールとして英語を活用して議論するために必要な教養や技能の設定や取組に課題。……曖昧な技能設定による取組。

【課題解決のための手立て】

- 授業や課外の工夫と改善, それらの英語科での組織的な展開
- 英検やGTEC等の外部民間試験の活用(修得させるべき能力の検証)
- 国際交流プログラム等の一層の充実, 英語研究部を中心とした外部専門機関と連携(目指す生徒像を共有して組織的に展開)

具体の取組の内容

- 【授業・課外の工夫と改善】** ○卒業時の生徒像をシェアし、4技能の修得と学習段階を踏まえて、学習到達目標を明確にしつつ、各年次ごとに指導。
 ○授業では学年共通のワークシートを用いて、各クラスの授業の質を保証する。教科書の題材ごとにパーソナライズしたQ&Aを使用してペアワーク・グループワークを行うことにより、教科書テーマを自身に引き付けて捉えさせ、より深い思考を促している。
 ○自身の意見を論理的に発言し、他者の意見をクリティカルに聞く習慣を身につけさせるため、帯活動として、ディベート活動を展開。
 ○ハワイ大学研修に参加した教員の公開授業・授業研究会を実施、機会を捉えて英語科の教員で相互の授業参観を実施。
 ○話す技能を向上させ自己表現の喜びを体験させるため、パフォーマンステストとして、Show&Tell、Role-Play、Shadowing、Presentationを実施。

- 【国際交流と外部専門機関との連携】** ○国際交流プログラムでのオーストラリア派遣生徒の言語・文化指導、来日留学生の受け入れ・授業参加。
 ○茨城県ローズ杯英語ディベート大会・インタラクティブフォーラム・国連グローバルセミナー・JICA研修(高校生国際協力実体験プログラム)への生徒参加。
 ○大学のGlobal Studies・国際関係・語学に進学を希望する生徒への個別指導。

- 【民間試験の効果的な活用】** ○英検やGTECを活用して4技能の習得状況を検証。結果を指導の改善等に活用。
 ○二次試験での【話す】【聴く】技能の向上のための個別指導の実施。

成果①

- 茨城県ローズ杯英語ディベート大会
参加生徒数の増加

年度(平成)	25	26	27	28	29
参加生徒数(人)	0	4	8	10	11

- 1・2年英検2級英検2級受験者の増加

年度(平成)	25	26	27	28	29
受験率	5%	28%	13%	12%	25%
受験者数(人)	42	237	108	97	183

- 英検2級合格率の上昇・受験者数の増加

年度(平成)	26	27	28	29
合格率	0%	4%	58%	13%
受験者数(人)	198	291	203	291

成果②

- 大学進学関連
 - ・英検CSEスコア利用での大学合格者の増
 - ・海外の大学への進学者の増
 - ・Global Studies・国際関係・語学系大学への進学者の増
- 外部専門機関との継続的な連携
 - ・国連グローバルセミナー参加者が毎年コンスタントに存在
 - ・JICA(高校生国際協力実体験プログラム)参加者が毎年コンスタントにいる
 - ・茨城県ローズ杯英語ディベート大会参加で、難解な論題にも果敢に取り組む生徒増。
- 生徒の表現意欲向上などの変容
 - ・教室での英語による意見交換が活発に。
 - ・教科を超えて他教科と連携しての活動も。
 - ・自分の考えを人前で発表できる生徒の増。

今後の課題・方向性

- 今後の課題
 - ・本事業の展開により自己表現する楽しさを感じている生徒は増加し、更なる英語力の向上を目指したいというモチベーションも上昇している。
 - ・コミュニケーションツールとしての英語の技能の面では、英検準1級レベルがいる一方で、CEFR B1レベルに達していない生徒も多く存在するなど、生徒全体での英語スキルの向上が課題となっている。
- 今後の方向性
 - ・グローバルな視点で物事を捉え、思考できる、自立した英語学習者を育成するという方向性を今後とも堅持していく。
 - ・学校全体英語科全体での組織的な取り組みを継続して、生徒全体のスキルアップを図っていく。

現状の課題と課題解決のための手立て

- ・日本人同士のペアワークで英語を話す際に照れがある。→ 授業で英語を話すことの日常化
- ・家庭学習の意欲が弱い。→ 合格・不合格がはっきり出る英検の全員受験

具体の取組の内容

- ◆学校設定科目「白幡英語Ⅰ」での取り組み
 - ・毎時間冒頭での「1分間スピーチ」ペアで交互にワード数を数えて記録する。・前期はプレゼンテーションの練習。（「Show & Tell」など）
 - ・後期はペアによる「簡易ディベート」。肯定否定派に分かれてALTから与えられたテーマについて、短い時間でアイデアを紙にまとめ、交互に発表し、それに対しての反論を行う。ALTが英文の添削を行う。共通の間違ひに関しては、次回ALTが全員にフィードバックする。次回は肯定否定を逆にしてもう一回同じテーマで行う。
- ◆1年生で英検準2級、2年生で2級を全員受験
未取得の生徒は1月の英検を全員学校で受験させている。過去問を使い学校で英語の授業の中で「英検模試」を直前に実施。
- ◆英語プレゼンテーション講座の実施
専門家を招いて、年2回実施。1回3時間。
- ◆英検2次対策
全員受験の際は、その対策として、英語の授業内でペアワークやモデル模擬面接などを通して面接練習を実施。

成果①

本校ではこの事業に参加する前から、英検の全員受験を行っているため、定量的な変化はあまり見られないが、英検準1級や1級取得の生徒が出てきたことは注目に値するだろう。

26年度 準2 215名, 2級 122名
27年度 準2 204名, 2級 127名,
28年度 準2 214名, 2級 108名,
準1 3名, 1級 1名
29年度 準2 210名, 2級 132名,
準1 2名, 1級 1名

成果②

- ◆教員から見た生徒の変容
ペアワークにおいて日本人同士でも、憶せず英語を話す雰囲気がいぶ広がった。
人前で、英語を発表することに少しずつ慣れてきている。
- ◆管理職から見た職員の変容
授業で生徒達に英語を実際に使わせる時間が多くなってきたように思われる。新入試への対応としても大いに期待できる変容である。

今後の課題・方向性

- ◆英検準1級合格者を増やす。
- ◆リスニング力強化の指導法の開発。
- ◆資格の取得が目標にならないようあくまで、竜一の普段の授業を受けていれば、英検は対策などさほどしなくても受かるというようにしたい。